中部地区公民館だより

第164号
令和６年１０月１日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町４番１１号
TEL　６７３－２５８８
FAX　６７３－０３７９

便利な機能あるんだなぁ

スマホ教室

８月29日（木）、ソフトバンク株式会社に依頼し、初心者向けのスマホ教室を開催しました。進め方を統一するために、全員が貸し出し用の同じスマホを使用し、映像とスマホの画面を見比べながら、スマホの操作に挑戦しました。初めてスマホを触る方もいて、電源の入れ方、スライドやタップの仕方、グループラインについてなど、分かりやすく説明していただきました。マップの機能では公民館や自由の女神を表示し、ストリートビューで現地の様子を見ることができました。「スマホを見て、ニューヨークに行ったみたいな気分だ」と感動しました。文字を打つのが苦手な高齢者の方も多いので、音声入力のやり方も教えていただき、「しゃべった通りに文章になって画面に出てくる。すごいね」と便利な機能がたくさんあることを知りました。すぐに実践できる内容が多く、「初心者向けの内容で良かった。また教室を開催してほしい」と要望が多くありました。

利用しやすい公民館を目指して

９月４日（水）、「女性だけの集まり」を開催しました。運営協議会女性委員と中部地区公民館を多く利用していただいている団体の女性代表に参加いただき、これからの公民館について要望や課題点などを語り合いました。 十日町に開館して9年目を迎え、多くの方にご利用いただいている状況ですが、“今より利用しやすい公民館にするにはどうしたら良いか“をテーマに、貸館について、公民館事業についてと2つに分けて、アンケートに答えながら項目ごとに意見をいただきました。備品の追加、設備の充実なども要望が多く、次年度以降の予算で検討することになりました。

公民館事業では、趣味や教養に関する講座に興味がある方が多く、ボランティアや公民館事業を手伝いたいが戸惑いもあるので、公民館だよりで募集してもらえると参加しやすいなどの貴重なご意見をいただきました。

お忙しい中、出席いただいた各代表の方、ありがとうございました。

夜間の照明では階段の段差が分かりずらく、危険なので目立つようにエ夫してほしい。

鏡やピンマイクなどの備品を追加してほしい。

音響設備などの利用条件を緩和してほしい。

予約申請の期間をもう少し長くとれるようにできないか。

職員がいない時間帯に２階を利用する団体は、１階の状況がわからず不安な時がある。

公民館事業 参加者募集

参加申込はすべて10月2日(水)
午前9時から受け付けします

七宝焼き教室

日　　時	10月30日(水)午前9時30分から
場　　所	中部地区公民館 会議室1･2
講　　師	西郷地区公民館 推進員
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	先着15人(定員になり次第締切ります)
参 加 費	500円
申込締切	10月21日(月)
持 ち 物	必要な方は飲み物、老眼鏡

昨年の作品です

公民館大掃除ボランティア募集

日　　時　　11月2日(土)午前8時から

･掃除の時に使用する雑巾、またはいらなくなったタオルをお持ちください
･ボランティアしてくださる方は、10月30日(水)まで連絡ください

ヨガ教室

日　　時	11月5日(火)午前10時から
場　　所	中部地区公民館 多目的ホール
講　　師	かみのやまスポーツクラブ
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	15人
参 加 費	無料
申込締切	10月28日(月)
持 ち 物	ヨガマットがある方はお持ちください 必要な方は飲み物

健康ポイント対象事業　20P

街歩きウォーキング④

北町、八日町周辺を歩きます

日　　時	11月6日(水)午前9時30分から
集合場所	中部地区公民館ギャラリー
講　　師	北町地区会長 堀川栄助さん
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	先着10人程度(定員になり次第締切ります)
参 加 費	無料
申込締切	11月1日(金)
持 ち 物	必要な方は飲み物、帽子
そ の 他	歩きなれた靴

健康ポイント対象事業　20P

一般講話

「上山の歴史」（城下町・宿場町・温泉町の歩み）

日　　時	11月13日（水）午前10時から
場　　所	中部地区公民館　多目的ホール
講　　師	荒木雄之文化財専門員
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	20人
参 加 費	無料
申込締切	11月8日（金）
持 ち 物	必要な方は飲み物

8月22日に行う予定だった一般講話です
希望の方は再度お申し込みください

中部地区公民館事務長募集

募集人数	1人
職務内容	公民館事業の企画、資金管理、運営、経理（給与計算含む）の事務等 施設管理
条　　件	健康で意欲的かつ、基本的なパソコン操作（Word、Excel）ができる 65歳未満の方 普通免許をお持ちの方
勤　　務	週35時間（午前8時30分～午後5時15分） 一部土・日・祝日勤務の場合あり
給　　与	月額　216，000円 健康保険、厚生年金保険、雇用保険等適用
採用期日	令和7年4月1日
申 込 み	履歴書1部を持参、または郵送
締　　切	令和6年10月31日（木） 尚、面接日は別途連絡します

10月の予定

3日（木）	地域づくり委員会
11日（金）	はこべの会 学習会⑤（映画鑑賞・他）
16日（水）	はこべの会　サロン
19日（土）	地域の宝さがしウォークラリー
24日（木）	第2回公民館運営協議会
30日（水）	七宝焼き教室

10月の百歳体操

3、10、17、24、31日

10月のサロン

秋を楽しむ
食事会と茶話会

日　　時	10月16日（水）午前10時
場　　所	中部地区公民館 多目的ホール
申込締切	10月10日（木）
会　　費	300円

地域の宝再発見

NO.９６

藤井松平氏シリーズ３．「松平信将侯」～１４．「大坂加番～果たして実入りはあったのか」（下）

先に信通侯の加番のことも見ましたが、元禄十五（1702）年初めての加番の折りの記録として、郷夫３４０人（領内からの農民町民雇用、別資料には３５０人）、その給金は「二両三分」、宝永七（1710）年加番の折りは郷夫３８０人とあります。更に上山から江戸までの旅籠代（別途手当）、農民、町方郷夫には、「刀・羽織・袴などの衣服貸与」、「年頃２０才より５０才迄、脇差し差させ衣類見苦しく無き様の様に、足軽勤め候者へは、刀・羽織・袴などお貸しになられ候」と記されています。「馬子にも衣装」という言葉がありますが、実際は隊列を装い、整えるためには大層な物入りでした。

７月１５日に江戸発駕の隊列は、侍５０人、徒２０人、小頭１３人、旗竿５本滑皮覆、先筒６５挺猩々革袋、先弓２５張熊皮空穂、先長柄６０本鳥毛鞘、持筒１０挺黒羅紗、持弓５丁白猪、持長柄１０本刈立峯鞘、牽馬１０疋です。信通侯の場合、「凡そ二十町程行列続き、惣人数千人に余る」（㉛）とあり、江戸市中の行軍隊列が千人を越えて物見高い江戸の町衆からどこの殿様だと囁かれたとも云います（江戸時代を通じて加番隊列の家臣人数は１００名程、郷夫３５０人程、計５００名の大勢）。つまり、大坂加番の「一倍物成（藩高の一割引、二万七千石）」加料は、藩収入にほぼ見合うものでしたが、装備・装いの他、加番中の江戸や大坂各所への「御進物」など支出に充てられ、どれほど実際の実入りになったか訝しくなるような様子でした。

また、『藤井御傳記』によれば、信通侯は上山藩封入前から田安門守衛、本所材木倉火防、家綱侯十七回忌接伴、東照（家康）公祭礼奉行を行って元禄十（1697）年９月に上山領を賜り、入部して後も加番の合間に東叡山（寛永寺）屏風坂門守衛、外桜田門守衛、再び東照公（家康公）祭礼奉行、方角火防、駿府城加番、東叡山車坂守衛、将軍家宣葬儀増上寺裏門守衛、東照公百回忌日光仁王門警衛、家継一周忌増上寺表門警衛の勤役を果たしました。

同じように信将侯も外桜田門守衛、家継公二十七回忌増上寺警衛、九代家重公紅葉山御営供奉、桜田門火防、吹上火防、外桜田門守衛、八代吉宗公七回忌寛永寺霊廟警衛などの勤役を勤めています。勤役には加料があったのか無かったのか不明ですが、譜代としての忠節勤役が科されていたことが窺い知れます。

そもそも、封建時代は「御恩と奉公」の関係で主従が結ばれ、江戸時代も封地（上山領）を宛がわれると同時に忠節を尽くすことが求められました。信将侯の時代に、酷い大飢饉の発生、伝馬継馬制のなかで元文二（1737）年「飯盛女」公認、延享四（1747）年「見る目原一揆」騒動、宝暦七（1757）年５月１９日より雨降り続け２４日には寒河江から上山まで海のようになり、領内一面大洪水で町屋も軒端を浸すほどだったと記されています。役所は小舟で炊き出しを出し、藩庁は暮れに金三千両を借金し窮民を救済したと云います。加えて宝暦十（1760）年江戸屋敷が火災に遭い品川に移らざるを得ませんでした。飢饉が続いて収穫がただならぬなか、領国でも江戸表にても多大な物入りが続いたと察することが出来ます。

藤井松平氏上山三代の内、信通侯の家督を嗣いだ長恒侯を除き、信通侯四回、信将侯五回計九回加番で、信将侯は五回目宝暦十一（1761）年加番中に斃れたのです。剛弓をならしたという信将侯は、信州上田から羽州上山の殿に迎え入れられ、流通経済の発展に対応しえない治政のなか国を思い国を安んじたいと願いつつ病魔に斃れることになったのです。

この項で「信将侯代」を終了いたします。

※参考文献：『市史』、市史資料集①『藤井御傳記』、②『年代略記』④『秦善左衛門日記手控』、⑫『上山町史』、⑰『三家見聞日記』、⑱『見聞随筆』、㉛『大坂加番資料』、その他

水岸山観音寺　住職　　鎌上　宏